

都立日比谷高校のグローバル教育の取組について

東京都立日比谷高等学校 校長 武内 彰

●21世紀を切り拓くグローバル・リーダーの育成

本校では、将来グローバル・リーダーとして活躍できる資質・能力を備えた生徒を育成しようとしています。そのためには、「確かな教養」と「豊かな人間性」を本校3年間の生活の中で培ってほしいとの思いをもって、教育活動を展開しています。

具体的には大学入試科目になくても、すべての科目を授業として当たり前で学んでもらっています。理科は物理・化学・生物・地学の基礎科目は必履修です。また、地歴公民も、日本史・地理・世界史・倫理・政治経済は必履修となっています。

このように確かな教養の土台の上に、大学以降での高い専門性を積み重ねた人が、将来の社会生活において、新たな知や価値を創造していくと考えています。また、部活動や学校行事にも尽力する中で、他と協働し、共通の目標に向かって切磋琢磨する体験を通して、リーダーとして相応しい豊かな人間性を身に付けていくことができます。

●グローバル・リーダー育成海外派遣研修の実施

このような理念に基づいて、これまで継続実施してきたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）海外派遣研修に加えて、平成27年度よりグローバル・リーダー育成海外派遣研修（ボストン・ニューヨーク研修）を新設し、毎年12名の2年生を派遣しています。ハーバード大学、MITの訪問に加え、ニューヨークのアспен研究所において世界の食料問題の解決策を専門家の前でプレゼンテーションすることに主眼を置いています。これは文科省のSGH（スーパーグローバルハイスクール）指定校申請のために創り上げたプランですが、申請が通らなかったために、東京都教育委員会から東京グローバル10の指定を受けて実現させたものです。



2017年10月ミチュホル高の生徒たちが日比谷高校を訪れ、星陵像の前で記念撮影

生徒たちに身に付けさせたい力として、「柔軟で論理的な思考力」「英語をツールとして使いこなす力」「発信力・提言力」を掲げ、それらの育成に

向けて取組を継続しています。専門家からは厳しい指摘を受ける場面もあるのですが、アспенの機関誌に紹介されるなど、高い評価も得ています。

●海外姉妹校交流の新設

高校生という多感な時期に世界とのつながりを体験することで、自らの進路意識や人類に貢献する志を高くもってほしいとの思いで、平成29年度から海外姉妹校交流を始めました。ニュージーランドのコロンバ・カレッジと韓国のミチュホル外国語高等学校と短期の交換留学を実施しています。韓国との交流について述べれば、互いに10名の生徒がホストファミリー宅に宿泊し、家族の一員として異文化等に触れるとともに、授業に参加して学び合う中で、別れの時には互いに涙を流すほどの関係をつくります。日韓は政治面では必ずしも順調とはいえませんが、若いうちにしっかりとコミュニケーションをとり、分かり合おうとする経験が将来につながるものと考えています。「日常の交流と信頼関係の構築により、将来的に国際問題が生じた場合にも両国が協働して対処できる関係まで発展させることができる」のは、こうした姉妹校交流を体験した生徒たちではないか、とも考え、この交流を創設したのです。



3月には日比谷高生がミチュホル高校を訪問し、授業に参加している様子

●今後について

本校は全国公立高等学校の中でも注目される進学校ですが、これからは直接海外の大学へ進学する生徒たちが増えるのではないかと予測しています。そこを見据えて、外郭団体の御支援を得ながら、生徒のニーズに応えられるよう体制を整備していく予定です。

PROFILE

武内 彰 (たけうち・あきら)

2012年、東京都立日比谷高等学校校長に着任。以来、「グローバル・リーダーの育成」を掲げて学校改革を進め、東京大学合格者数は2014年より5年連続で全国公立高等学校でトップ。また、同校140年の歴史上初めて、韓国の高校と姉妹校締結を実現した。



表紙作品 紹介

タイトル：「過去と未来をつなぐユース朝鮮通信使」
(作者：蔵田 美裕)

2014年に参加したユース朝鮮通信使訪韓団のことを想いながら韓紙に水彩画の技法で描きました。